HOMES

アーチ窓を持つビリヤードルームに置かれたチェスターフィールドソファに仲良く腰掛けたロビー&アイダ・フィールド・ウィリアムズ夫妻。壁に掛けられているのはバンクシーの作品。

トップクリエーターが暮らす、個性の光る家

ミュージシャンにジュエリーデザイナー、メイクアップアーティストに
インテリアのスペシャリスト。クリエーティブな彼らを癒やし、ときに刺激するのはどんな家?
こだわりや趣味がふんだんに盛り込まれた、ユニークな豪邸を拝見!

Heart of Rock Star

常識を覆す、自由な発想から生まれた空間

カリフォルニア生まれの女優、アイダ・フィールド・ウィリアムズと
夫でイギリスのポップ・アイコン、ロビー・ウィリアムズが、
3人の子どもや動物たちと暮らすビバリーヒルズの豪邸を公開。
ありきたりの豪華さとは無縁の、遊び心あふれる空間に注目して。

*Photos*_WILLIAM ABRANOWICZ *Original Text*_ANUSH BENLIYAN
*Styling*_CLIFF FONG & MORGAN HEWITT *Text*_SHIYO YAMASHITA

ミッドセンチュリーの
ヨーロッパが薫る遊戯室

ビリヤードルームの主役は、バンクシーの2004年作「I Fought the Law and I Won」。ビリヤード台に映り込んだラグが美しく、ジオ・ポンティによるハイバックのアームチェアの張り地の青ともマッチ。ジャック・アドネのアームチェアやスティルノヴォのシャンデリアも。

CHINATI

ロビー自慢のアートが ひしめくリビングルーム

バンクシーからイヴ・クライン、デイヴィッド・ホックニーまで並ぶリビング。ピエール・ジャンヌレやマッツ・テセリウスの名作椅子、ジャン・プルーヴェのデーベッドなどの名作家具が静かな存在感を発揮する。

妻が夫にプレゼントした 卓球台もアート作品!

右　フィリップ&ケルヴィン・ラヴァーンの真ちゅうのコーヒーテーブルの上にあるのは1920年代にマルセル・ブロイヤーが発表した真ちゅうのテーブルランプ。
左　ミラー張りの卓球台は現代美術家のリクリット・ティーラワニットによる作品で、アイダがロビーに贈ったもの。アームチェアはミッドセンチュリー期のイタリアのヴィンテージ。

暖炉が中心の
左右対称なダイニング

引き出しのついたヴィンテージの
ファームハウステーブルを、
ハンス・J・ウェグナーのチェア
「JH513」が囲むダイニング。
クスタヴィアンの食器棚や
スプートニクランプは
左右対象に配置してすっきりと。

高級すぎず、家族が暮らし、遊び、息ができる場所

ビバリーヒルズの高台に立つ、地中海風の外観を持つ巨大な邸宅。イギリスの生んだメガ・ポップ・スター、ロビー・ウィリアムズと、カリフォルニア生まれの女優、アイダ・フィールド・ウィリアムズは、2015年に購入したこの家に3人の子ども、8匹の犬、2匹の猫、1匹の亀と共に暮らしている。アイダによれば、購入時のこの家は地中海風の要素が無秩序に存在する、お世辞にも趣味がいいとは言えないものだったそうだ。

「私たちは派手でグラマラスなものは望んでいませんでした」と語るアイダは、LAを拠点とするデザイナー、クリフ・フォンに協力を依頼。この家のぜいたくすぎる部分を編集し、人間らしいものにするべく、重厚感のある大理石や金箔などで仕上げられた部分を整理していったという。彼らが目指したのは、いかにもビバリーヒルズ風ではないインテリア。10の寝室を持つ700坪超の豪邸を真っさらなキャンバスに戻した後、ここににぎやかな家族にふさわしい新たな要素をプラスしていった。

リラックス空間で生きる20世紀デザインの名品

家族だけでなく多くのチームスタッフも出入りするこの家を、アイダとロビーは融通が利いて、機能的で、自由なものにしたいと考えた。高級すぎず、家族が暮らし、遊び、息ができる場所。そんな難題を与えられたクリフは、2人の希望を念頭に置きつつ、ヨーロッパの20世紀のデザインを愛するアイダの趣味と、バンクシー、デイヴィッド・ホックニー、アンディ・ウォーホルらの作品を含む膨大なロビーのコレクションを生かしたものにしようと奔走。彼は自身の経営するギャラリー・ハーフをはじめとしたヴィンテージショップでピエール・ジャンヌレやジャン・プルーヴェ、ジャック・アドネ、フリッツ・ヘニングセンなどの貴重な名品を購入し、それらを遠慮なく使えるよう、工夫しながら配置していった。数々のヴィンテージ家具のなかには、アイダがオークションで落札したジオ・ポンティのラウンジチェアなども。

ミッドセンチュリーの家具と個性豊かなアートを共存させるために活躍しているのが、木やウールなどのナチュラルな素材や植物の存在。ウエスト・ロンドンにも豪邸を持つ彼らは2軒の間を行き来する超多忙な日々を送っているが、「仕事で長く留守にした後にこの家に戻ると、リラックスできて居心地よく、愛すべき環境の中で家族の時間を過ごすことができるんです」とロビー。アイダも言う。

「これが私たちが最も純粋な形でいられる場所。ウィリアムズ家の暮らしはいつだって楽しくて混沌としているけれど、私たちはそんな混沌に喜んで根ざしている。私たちの、愛の家なんです」

クリーム色をベースにした ぜいたくな広さのバスルーム

敷き込まれたブラウンのカーペットの上に
さまざまなラグを縦横に自由に敷いた、
広々としたアイダのマスターバスルーム。
厚地のリネンのカーテンがプライバシーを
守りつつ、落ち着いた雰囲気を演出。
ユニークな形のバスタブの向こうに見える
シープスキンのスツールはLAの
アビテ・デコレーションで購入したもの。
クリーム色のソファはスウェーデン製、
カラフルなシャンデリアはカルヴァーシティの
ヴィンテージショップ、オブソリートで。

上品なゴージャスさを表現した アイダ自慢のパウダールーム

装飾的な石のトップと木のキャビネット、
真ちゅうの金具と洗面ボウルを組み合わせた
ゴージャスな印象の洗面台。
ウォールランプはメルローズアヴェニューの
ヴィンテージショップ、ギャラリーL7、
ミラーはビヴァリーブルヴァードのオレンジと、
近隣の名店で見つけてきたもの。
クラシックで装飾的なデザインと、
20世紀のデザインの両方を愛する
アイダの好みがうまくミックスした、
特別感のあるパウダールームとなっている。

さまざまな要素がそろう巨大なベッドルーム

ジャン・ロワイエール風のソファから
ダイニングセットまで備えた、
アイダとロビーのベッドルーム。
ベッドの上に飾られているのは
リタ・アルバカーキのペインティング。
赤いウイングバックチェアは
フリッツ・ヘニングセン作。

柔らかな色でまとめた明るい子ども部屋

リアルな動物の縫いぐるみが並ぶ
3人の子どもたちのための部屋。
美しいグレーのデーベッドは
レストレーションハードウェアで購入。
壁に飾られた世界地図の照明は
LA在住のデザイナー、
スコット・コッパースミスによるもの。

LAの絶景を眺めながら日常を忘れるひととき

カリフォルニアの日差しを浴びながら子どもたちと楽しく遊べる、ロビー自慢の大きなプール。反対側を向けばLAの風景を一望できる。チーク・ウェアハウスで購入した「Cabo Teak Outdoor Club Chair」はリラックスした時を過ごすのにぴったり。